

式　　辞

新しい年とともに3学期が始まりました。

皆さんの2026年が良い年になるように願い、昨年ノーベル化学賞を受賞された北川進先生の話をします。

北川先生は「役に立たない」と見なされていた材料に注目し、無数の微細な穴を持つ「金属有機構造体（MOF）」を発見しました。無数の穴を生かして二酸化炭素を回収したり、薬の成分を病気の患部にだけ届けたり、特定の物質を分離して化学反応を促進させたりすることができるというのです。

先生の座右の銘は「無用の用」です。これは中国の思想家莊子の言葉で、「一見役に立たないものの中にこそ、本当に大きな価値がある」という意味です。先生は役に立たないと思われていた研究の可能性を信じて、その研究を続け、環境、医療、エネルギー、半導体などの分野で、人類が直面する課題を解決する可能性を示して、大きな希望をもたらしました。

皆さんのが今、勉強していること、興味を持っていることの中にはすぐには役に立たず、無用に思われるものもあるかもしれません。でも、未来は今日の小さな選択の積み重ねで作られています。より良い未来にするには良い選択を重ねていかなくてはなりません。やっても意味がないと決めつけるのではなく、やるかどうか迷ったときにやってみようと選ぶこと。その選択が皆さんの将来の可能性を確実に広げてくれます。

3学期は1年の締めくくりであり、新しい年度への助走の期間でもあります。どうか自分の中にある「無用の用」を大切にしてください。「無用」に思える挑戦が大きな夢や未来を切り開く大切な一歩になるのです。新しい視点を持ち、失敗を恐れず挑戦していきましょう。

令和8年1月8日

愛媛県立東予高等学校長 檜垣 知美